

東北復興日記

73

いわきおてんとSUN企業組合
コミュニティ電力担当
島村守彦さん



自然エネを復興の象徴に

原発事故からはや三年、賠償金は働く理由と意義を奪い、地図に書かれた線引きは区別と差別を生む。不満とねたみが地域コミュニティーをたき壊し、それでも多く

の人はいろいろな思いを押し殺して暮らしています。そんな理不尽に覆われた福島に今必要なのは希望と夢だと思います。それも与えられるのではなく自らがつくり出す希

望と夢です。

昨年一月に法人化した「いわきおてんとSUN企業組合」が手がけるコ

ミュニティー電力事業は地域再生の手段、脱原発

の代替案として自然エネ

ルギー事業に取り組んで

います。きっかけとなっ

たのはライフルラインが途

絶えた津波被災地に太陽

光パネルと蓄電池を運

び、明かりをともす活動

でした。その場所が暗け

れば暗いほど、一筋の明

かりは希望となることを

強く感じました。

原発事故によりコンセ

ントの先を見るようにな

った私たち。コンセント

の先には復興のシンボル

となる夢と希望が必要で

す。自然エネルギーであ

ればそれを実現できると

考え、事業に取り組んで

います。ボランティアの

皆さんと作り上げた三十

路の太陽光発電所であ

り、地域の小中学校で開

催している自然エネルギー

講習会です』写真。

最近では自然エネルギー

を宅配する電源車も整

備しました。屋外でのコ

ンサートやさまざまな市

民イベントにエネルギー

供給を始めています。い

つもたくさん的人が集ま

り笑顔があふれています。

今年は市民出資による

発電所の増設を行いま

す。藤棚式に太陽光パネ

ルを設置し、下で農作物

を作るソーラーシェアリ

ング方式です。

コミュニティの再生

につながる電力事業に多

くの人を巻き込み、新た

な事業として雇用を生み

だすことを目指して活動し

ていきます。この約三年

間の活動を紹介するブッ

クレット『フクシマから

日本の未来を創る』が早

稲田大学出版部より発刊

されました。

絶えた津波被災地に太陽光パネルと蓄電池を運び、明かりをともす活動でした。その場所が暗ければ暗いほど、一筋の明かりは希望となることを強く感じました。

原発事故によりコンセントの先を見るようになつた私たち。コンセントの先には復興のシンボル

となる夢と希望が必要です。自然エネルギーであればそれを実現できると

考え、事業に取り組んでいます。ボランティアの

皆さんと作り上げた三十

路の太陽光発電所であり、地域の小中学校で開催している自然エネルギー

講習会です』写真。

最近では自然エネルギー

を宅配する電源車も整備しました。屋外でのコンサートやさまざまな市

民イベントにエネルギー

供給を始めています。いつもたくさん的人が集まり笑顔があふれています。

今年は市民出資による

発電所の増設を行いま

す。藤棚式に太陽光パネルを設置し、下で農作物

を作るソーラーシェアリ

ング方式です。

コミュニティの再生

につながる電力事業に多

くの人を巻き込み、新た

な事業として雇用を生み

だすことを目指して活動し

ていきます。この約三年

間の活動を紹介するブッ

クレット『フクシマから

日本の未来を創る』が早

稲田大学出版部より発刊

されました。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結縁プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。